

日商産一発 第70号

2012年1月31日

LOBO調査 実施商工会議所 御中

日本商工会議所

商工会議所LOBO（早期景気観測）
――2012年1月調査結果――

LOBO調査（2012年1月分）の集計結果の送付について

先般実施いたしました標記調査の集計結果を下記の通りご報告いたします。
実施商工会議所各位におかれましては、本調査結果をヒアリング対象企業へ送付されるほか、会合等での資料として積極的にご活用くださるようお願いいたします。
なお、本調査結果（ブロック別概況部分を除く）につきましては、日商ホームページに掲載しておりますので、併せてご利用ください。
（アドレスは <http://www.jcci.or.jp/lobo/lobo.html> です。）

（本件担当） 産業政策第一部 須田・張替
TEL：03-3283-7839
FAX：03-3213-8716
E-mail:sangyo1@jcci.or.jp

○調査期間：2012年1月18日～24日
○調査対象：全国の415商工会議所が2796企業にヒアリング
（東北については、被災を免れた企業や被害が軽微な企業から回答）

<産業別回収状況>				<ブロック別回収率>	
調査産業	調査対象数	回答数	回収率		
建設	414	239	57.7%	北海道	51.5%
製造	663	363	54.8%	東北	44.9%
卸売	295	166	56.3%	北陸信越	42.5%
小売	726	363	50.0%	関東	56.0%
サービス	698	363	52.0%	東海	65.3%
合計	2796	1494	53.4%	近畿	49.2%
				中国	53.5%
				四国	69.2%
				九州	52.2%

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況（DI値を集計）
※ DI値（景況判断指数）について
DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。
DI = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

―――【2012年1月調査結果のポイント】―――
業況DIは、若干改善するも、先行きは力強さに欠ける

1月の全産業合計の業況DIは、▲31.9と、前月から+3.0ポイント改善した。復興需要を見据え、建築資材の取引が活発な卸売業の業況が大幅回復したことが主要因。しかし、超円高により、輸出の減少や取引先の海外移転加速に伴う受注の減少などの悪影響が及んでおり、企業経営は厳しい状況が続いている。
先行きについては、先行き見通しDIが▲31.4（今月比+0.5ポイント）と、ほぼ横ばいとなる見通し。今後、第三次補正予算の本格執行が見込まれるが、地域経済への波及効果がまだ弱く、大幅な業況改善にはつながらないとの声が多い。また、超円高や海外経済の動向、先行き不安に起因する消費マインドの冷え込みなど、懸念材料が多いことから、先行き見通しに対する慎重な見方が根強い。

ブロック・産業別業況DI（前年同月比：2012年1月）

	全業種	建設	製造	卸売	小売	サービス
全 国	▲ 31.9	▲ 29.0	▲ 25.6	▲ 22.3	▲ 40.3	▲ 36.2
北 海 道	▲ 29.5	▲ 28.6	▲ 31.6	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 27.6
東 北	▲ 10.9	10.5	▲ 8.3	▲ 14.3	▲ 12.0	▲ 26.9
北陸信越	▲ 27.7	▲ 34.6	▲ 6.7	▲ 21.4	▲ 32.3	▲ 41.4
関 東	▲ 31.0	▲ 18.9	▲ 27.2	▲ 18.8	▲ 39.8	▲ 41.2
東 海	▲ 25.3	▲ 13.6	▲ 15.9	▲ 38.9	▲ 40.0	▲ 22.9
近 畿	▲ 45.7	▲ 57.1	▲ 30.4	▲ 21.4	▲ 62.5	▲ 48.9
中 国	▲ 41.1	▲ 42.9	▲ 32.3	▲ 35.7	▲ 41.9	▲ 58.8
四 国	▲ 38.0	▲ 61.1	▲ 30.8	▲ 22.2	▲ 44.4	▲ 28.6
九 州	▲ 33.1	▲ 43.5	▲ 43.3	▲ 11.8	▲ 40.0	▲ 21.6

ブロック・産業別業況DI（先行き見通し：2012年2～4月）

上段：2012年1月時点

下段：2011年1月時点

	全業種	建設	製造	卸売	小売	サービス
全 国	▲ 31.4	▲ 32.5	▲ 24.0	▲ 28.5	▲ 40.4	▲ 30.2
北 海 道	▲ 38.6	▲ 50.9	▲ 34.2	▲ 37.8	▲ 35.9	▲ 38.1
東 北	▲ 28.6	▲ 42.9	▲ 26.3	▲ 11.1	▲ 33.3	▲ 20.7
	▲ 36.8	▲ 50.0	▲ 71.4	▲ 25.0	▲ 31.8	▲ 18.5
東 北	▲ 17.0	5.3	▲ 8.3	0.0	▲ 29.2	▲ 34.6
	▲ 38.7	▲ 58.8	▲ 26.9	▲ 30.0	▲ 22.6	▲ 59.3
北陸信越	▲ 24.0	▲ 32.0	▲ 10.0	▲ 7.1	▲ 32.3	▲ 31.0
	▲ 34.3	▲ 37.5	▲ 36.6	▲ 6.7	▲ 34.9	▲ 39.0
関 東	▲ 31.0	▲ 24.3	▲ 29.1	▲ 28.1	▲ 37.9	▲ 32.5
	▲ 39.0	▲ 56.9	▲ 35.0	▲ 33.3	▲ 35.8	▲ 36.0
東 海	▲ 32.5	▲ 27.3	▲ 15.9	▲ 61.1	▲ 42.9	▲ 31.4
	▲ 33.8	▲ 45.5	▲ 27.5	▲ 52.6	▲ 26.5	▲ 30.6
近 畿	▲ 39.5	▲ 42.9	▲ 34.5	▲ 21.4	▲ 52.1	▲ 36.2
	▲ 39.7	▲ 38.1	▲ 34.0	▲ 44.4	▲ 39.6	▲ 44.0
中 国	▲ 43.0	▲ 57.1	▲ 35.5	▲ 35.7	▲ 48.4	▲ 41.2
	▲ 40.2	▲ 46.2	▲ 29.4	▲ 62.5	▲ 48.3	▲ 25.0
四 国	▲ 28.0	▲ 50.0	▲ 15.4	▲ 37.5	▲ 33.3	▲ 17.9
	▲ 37.7	▲ 50.0	▲ 19.4	▲ 50.0	▲ 35.5	▲ 44.1
九 州	▲ 33.3	▲ 47.8	▲ 20.0	▲ 29.4	▲ 48.6	▲ 22.2
	▲ 47.3	▲ 68.2	▲ 46.9	▲ 22.2	▲ 45.7	▲ 42.4

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI（以下同じ）

産業別にみると、業況DIは、製造業はほぼ横ばいとなったものの、他の4業種はマイナス幅が縮小。特に、卸売業は、復興需要を見据え、建築資材の取引が増加していることから、業況が大幅に改善した。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「住宅エコポイント制度を利用したリフォーム工事の受注が増加」（一般工事業）、「復旧・復興工事の本格化に伴い、職人不足による人件費の上昇が顕著」（一般工事業）、「国および県で防災関連工事に多額の予算が計上されたため、公共工事の受注増加を期待」（一般工事業）

【製造業】「円高の影響で、親企業の米国・欧州向け輸出が落ち込んでいるため、自社の受注も減少」（自動車部品製造業）、「超円高により、韓国・中国企業との価格競争が厳しく、受注獲得が困難」（船舶製造・修理業）、「円高により欧州からの輸入品が値下がりしており、価格面で対抗できない」（製材・木製品製造業）

【卸売業】「復興需要の本格化に伴う木材、木製品の売上増加が見込まれる」（建築材料卸売業）、「地元企業が集まり中国に合弁会社を設立。その会社を拠点に積極的に販路を拡大していることから、業況が上向いている」（ネジ卸売業）、「国内の売上が落ち込んでいるため、イギリスをはじめ、欧州での販路開拓を進めている」（コーヒー豆卸売業）

【小売業】「厳しい寒さが続き、コートやマフラー等の防寒衣料の売上が好調」（商店街）、「帰省客が例年より多く、食料品の売上が伸びた」（総合スーパー）、「欧州経済の動向や厳しい雇用情勢等、先行きの不安材料が多く、個人消費が冷え込んでいる。そのため、来客数・売上とも落ち込んでいる」（百貨店）

【サービス業】「円高の影響を受けている主要取引先が、経費節減のため、設備投資を抑制。その影響で、自社の受注が落ち込んでいる」（ソフトウェア業）、「円高の影響で貨物取扱量が減少。加えて、軽油価格が高止まりする中、イラン情勢の緊迫化により、今後さらなる価格上昇が懸念される」（運送業）、「復旧・復興関連の仕事で来訪するビジネス客の宿泊が好調」（旅館）

【業況についての判断】

○1月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は▲31.9（前月比+3.0ポイント）と、前月からマイナス幅が縮小。産業別にみると、建設業は、住宅エコポイント制度の再開に伴い、民間需要が上向きつつあることから、マイナス幅が縮小。ただし、業況判断の内訳をみると、「悪化」から「不変」への変化が主であり、本格的な業況改善には至っていない。卸売業は、復興関連で建築資材の取引が活発なこと、部材の海外調達を進めている製造業からの注文が増えていることから、業況が大幅に改善。小売業、サービス業は、冬物商品の売上が堅調なこと、年末・年始での消費・宿泊需要が若干上向いたことから、業況が改善。一方、製造業は、超円高や海外経済の減速により、輸出が落ち込んでおり、業況は足踏み状態に陥っている。

○向こう3カ月（2～4月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）は▲31.4（今月比+0.5ポイント）と、ほぼ横ばいとなる見込み。

○産業別に先行き見通しをみると、建設業、卸売業は、今後、第三次補正予算の本格執行が見込まれるが、被災地以外では、地域経済への波及効果がまだ弱いことから、今月と比べ、マイナス幅が拡大する見込み。一方、サービス業は、春節による中国人旅行客に加え、年度末の歓送迎会など春先需要への期待感から、業況の大幅改善を見込んでいます。

【売上（受注・出荷）についての判断】

○売上面では、全産業合計の売上DIは▲26.0（前月比▲1.2ポイント）と、マイナス幅は2カ月ぶりに拡大。産業別にみると、建設業は、住宅エコポイント制度の再開に伴い、民間からの受注が増えている企業は売上が伸びているが、それ以外ではほぼ横ばいにとどまっている。一方、製造業は、超円高や海外経済の減速により、多くの輸出関連企業に悪影響が及んでいることから、マイナス幅が大幅に拡大した。

○向こう3カ月（2～4月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）は▲25.5（今月比+0.5ポイント）と、ほぼ横ばいとなる見込み。第三次補正予算関連の仕事がまだ中小企業に広く行き渡っていないこと、今後も超円高が続き、輸出の減少や取引先による生産・販売拠点の海外移転の加速が見込まれることから、DIの改善は伸び悩む見込み。

○産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、サービス業はマイナス幅が縮小するものの、建設業、製造業はほぼ横ばい、卸売業、小売業は拡大する見込み。

業況DI（前年同月比）の推移

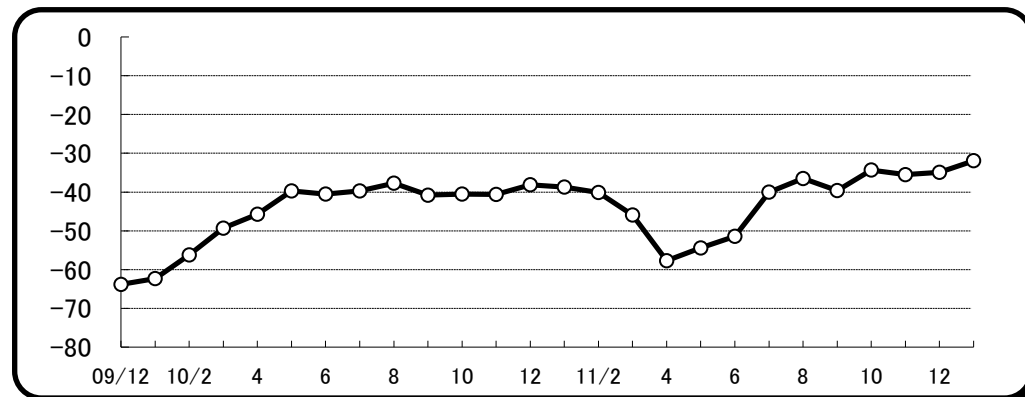
	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲36.5	▲39.6	▲34.3	▲35.5	▲34.9	▲31.9	▲31.4
建設	▲48.4	▲38.2	▲30.7	▲30.1	▲34.0	▲29.0	▲32.5
製造	▲28.1	▲33.5	▲26.2	▲29.2	▲24.8	▲25.6	▲24.0
卸売	▲35.4	▲34.7	▲38.8	▲32.9	▲35.9	▲22.3	▲28.5
小売	▲38.9	▲45.8	▲37.6	▲44.1	▲42.5	▲40.3	▲40.4
サービス	▲35.5	▲42.8	▲39.4	▲38.0	▲37.7	▲36.2	▲30.2

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

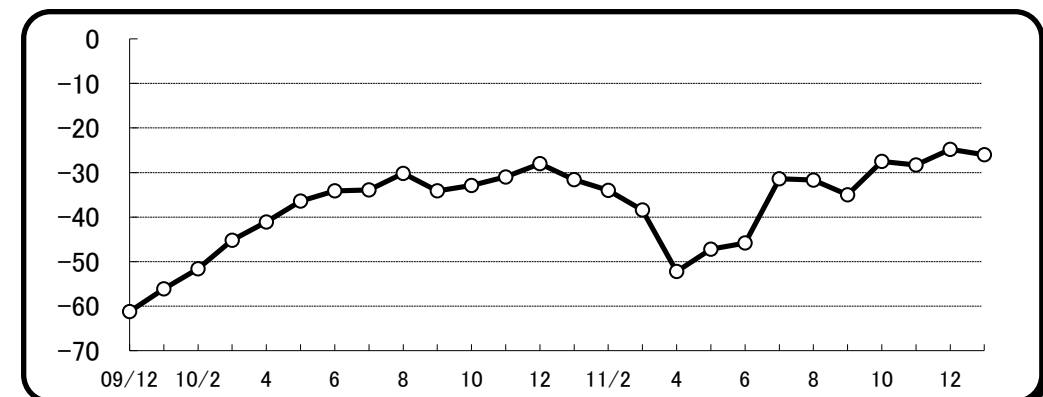
	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲31.7	▲35.0	▲27.5	▲28.3	▲24.8	▲26.0	▲25.5
建設	▲38.6	▲36.4	▲26.6	▲24.1	▲24.0	▲24.3	▲24.4
製造	▲20.5	▲23.0	▲13.7	▲13.0	▲11.0	▲19.6	▲19.1
卸売	▲37.3	▲32.7	▲29.7	▲22.6	▲23.7	▲22.9	▲24.2
小売	▲39.4	▲44.6	▲32.0	▲41.8	▲32.5	▲31.7	▲33.4
サービス	▲28.5	▲37.9	▲36.3	▲35.7	▲32.2	▲29.2	▲25.1

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

○採算面では、全産業合計の採算DIは▲29.3（前月比+2.1ポイント）と、前月からマイナス幅が縮小。産業別にみると、超円高により、輸出が落ち込んでいる製造業はマイナス幅が拡大。ただし、昨年秋口における国際商品相場の低下が、原材料価格に反映されつつあることや、部材の海外調達拡大により、経費抑制に努めていることから、売上の減少に比べ、採算の悪化は小幅に止まっている。一方、建設業は、住宅エコポイント制度の再開に伴い、民間需要が上向きつつあること、卸売業は、復興需要を見据え、建築資材の取引が活発なことから、採算が改善。

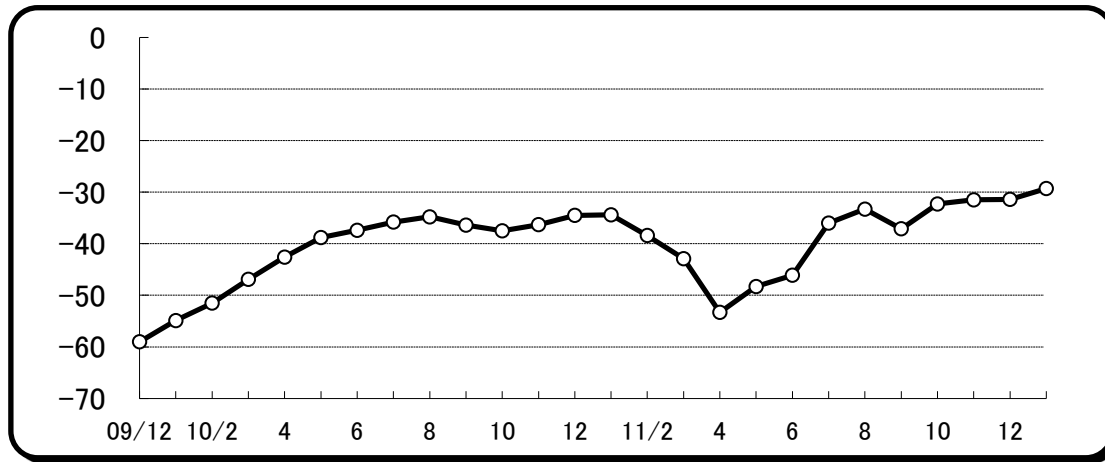
○向こう3カ月（2～4月）の先行き見通しについては、全産業合計の採算DI（今月比ベース）は▲28.0と、今月から+1.3ポイントの改善を見込んでいる。

○産業別に先行き見通しをみると、今月と比べ、建設業、小売業はマイナス幅が拡大するものの、卸売業はほぼ横ばい、他の2業種は縮小する見込み。

採算DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲33.3	▲37.1	▲32.3	▲31.5	▲31.4	▲29.3	▲28.0
建設	▲47.1	▲40.1	▲38.2	▲35.0	▲36.9	▲31.6	▲34.6
製造	▲29.3	▲32.9	▲24.9	▲24.2	▲22.3	▲24.0	▲20.2
卸売	▲31.2	▲30.7	▲28.4	▲28.3	▲26.3	▲20.5	▲21.3
小売	▲33.1	▲39.4	▲31.8	▲34.2	▲35.2	▲32.6	▲33.8
サービス	▲29.7	▲40.1	▲38.4	▲35.8	▲36.2	▲34.0	▲28.5

《採算DI（全産業・前年同月比）の推移》



(参考)

資金繰りDI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲23.0	▲24.4	▲22.2	▲21.2	▲21.3	▲20.4	▲21.7
建設	▲33.2	▲33.7	▲29.0	▲23.3	▲29.4	▲24.5	▲27.1
製造	▲18.2	▲21.4	▲17.6	▲15.5	▲11.4	▲16.2	▲17.3
卸売	▲11.5	▲14.1	▲17.7	▲20.4	▲15.5	▲12.1	▲16.5
小売	▲24.6	▲24.1	▲23.2	▲23.0	▲24.8	▲23.0	▲24.3
サービス	▲25.4	▲26.5	▲23.5	▲24.3	▲25.9	▲23.2	▲22.2

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比DI】全産業合計の資金繰りDIは▲20.4と、前月からほぼ横ばいで推移。産業別にみると、超円高に伴う生産・輸出減少の影響が及んでいる製造業はマイナス幅が拡大した。一方、建設業は、住宅エコポイント制度の再開に伴い、民間工事が若干増えていること、卸売業は、復興需要関連の仕事が増加していることから、マイナス幅が縮小した。

【先行き見通しDI】全産業合計の先行き見通しをみると、マイナス幅は今月と比べ拡大する見通し。産業別にみると、サービス業はマイナス幅が縮小するものの、他の4業種は拡大する見込み。

仕入単価DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲29.2	▲30.0	▲27.8	▲25.8	▲23.3	▲25.6	▲23.1
建設	▲31.8	▲35.1	▲34.3	▲31.4	▲30.9	▲31.4	▲29.8
製造	▲38.6	▲40.2	▲35.6	▲33.8	▲32.9	▲30.4	▲24.7
卸売	▲25.9	▲29.5	▲22.3	▲25.2	▲17.9	▲23.6	▲18.8
小売	▲19.3	▲21.0	▲19.8	▲15.2	▲12.9	▲17.3	▲17.0
サービス	▲29.3	▲25.7	▲26.7	▲25.1	▲22.1	▲26.0	▲25.3

DI = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比DI】全産業合計の仕入単価DIは▲25.6と、多くの品目で原材料価格が高止まりしており、低水準で推移。産業別にみると、卸売業は、復興需要を見越して、建築資材の取引価格が上昇していること、小売業、サービス業は、ガソリン価格の高止まりに加え、厳しい寒さにより、野菜の生育が振わず需給が逼迫していることから、マイナス幅が拡大した。

【先行き見通しDI】全産業合計の先行き見通しをみると、マイナス幅は今月と比べ縮小する見通し。産業別にみると、小売業、サービス業はほぼ横ばいとなるものの、他の3業種は縮小する見込み。

従業員DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲5.6	▲4.6	▲4.3	▲3.4	▲3.8	▲2.2	▲3.6
建設	▲13.2	▲13.2	▲4.8	▲2.2	▲8.8	▲4.3	▲7.2
製造	▲5.2	▲4.3	▲3.7	▲6.8	▲6.7	▲5.5	▲4.4
卸売	▲11.4	▲8.0	▲8.8	▲5.7	▲9.6	▲6.0	▲8.4
小売	▲1.4	0.0	▲3.5	▲1.9	2.0	0.8	0.0
サービス	▲2.9	▲2.5	▲3.4	▲1.2	▲1.2	1.1	▲1.7

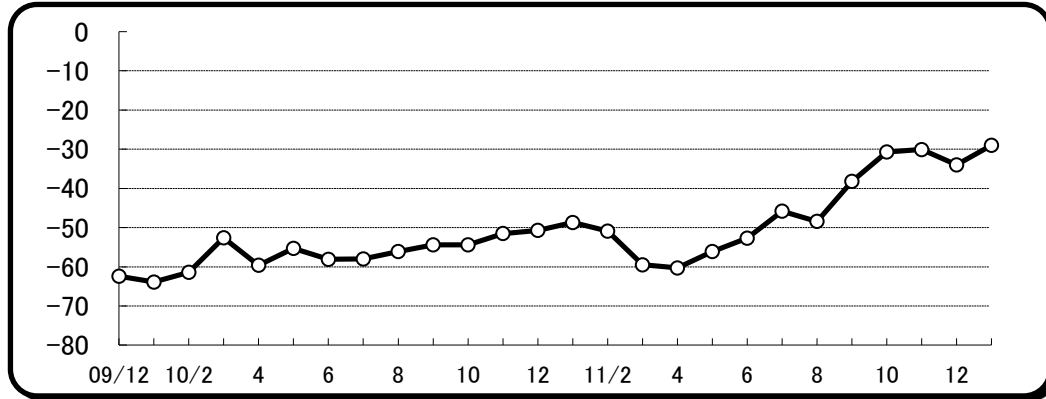
DI = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比DI】全産業合計の従業員DIは▲2.2と、前月からマイナス幅が縮小。産業別にみると、サービス業は、2008年4月以来のDI値プラスとなった。被災地や都市部で、サービス業を中心とする出店の動きに伴い、人手不足感が強まっている。建設業、製造業、卸売業もDIが改善傾向。

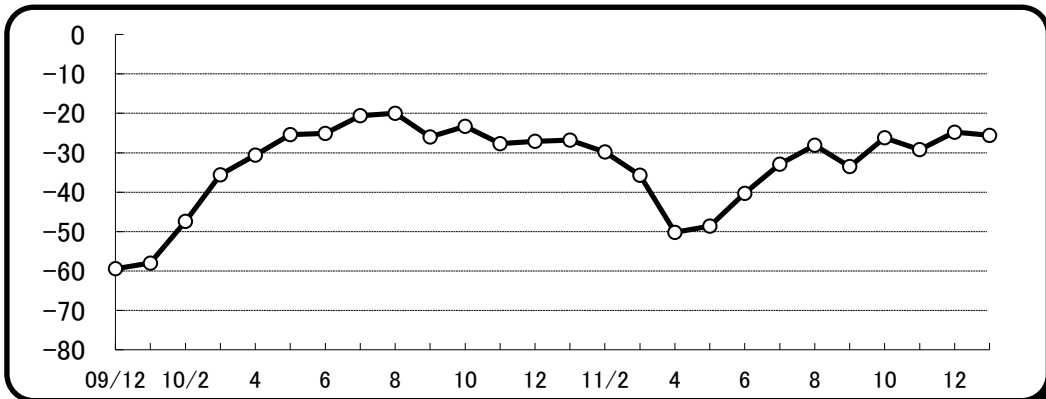
【先行き見通しDI】全産業合計の先行き見通しをみると、マイナス幅は今月と比べ拡大する見通し。産業別にみると、製造業はマイナス幅が縮小するものの、小売業はほぼ横ばい、第三次補正予算の執行状況を慎重にみている建設業をはじめ、卸売業、サービス業はDIが悪化する見通し。

業況DI（前年同月比）の推移（全国）

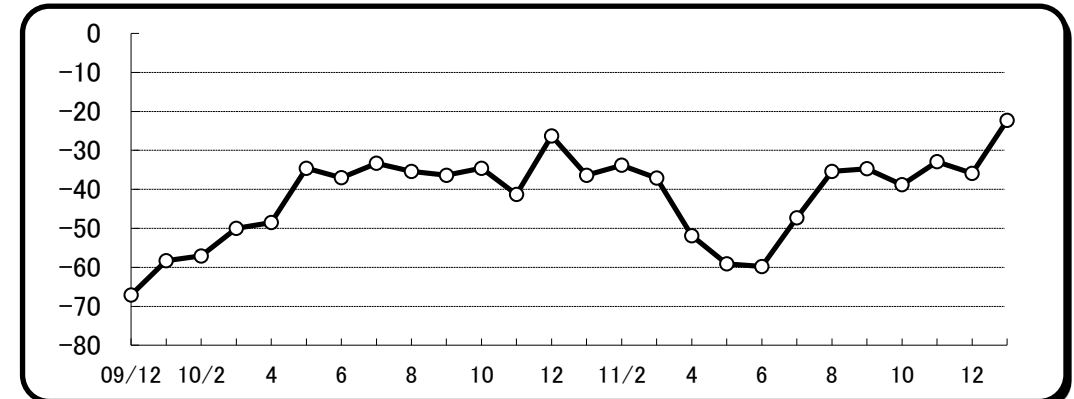
建設業



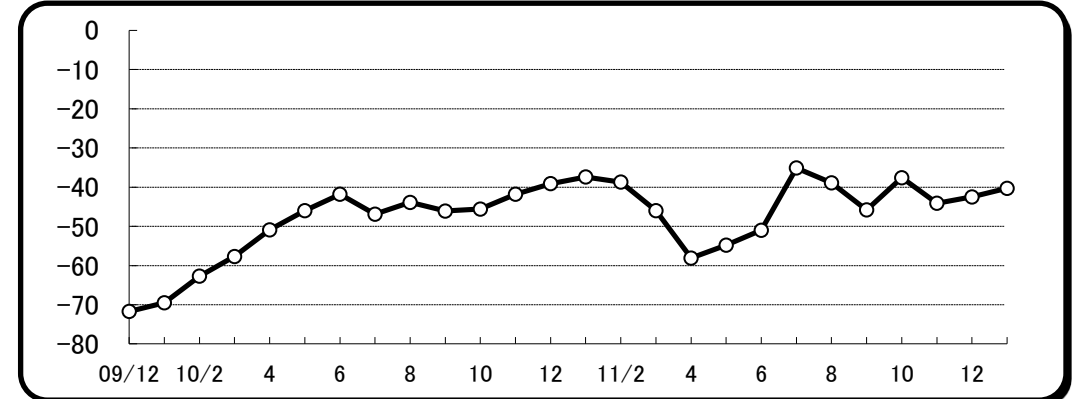
製造業



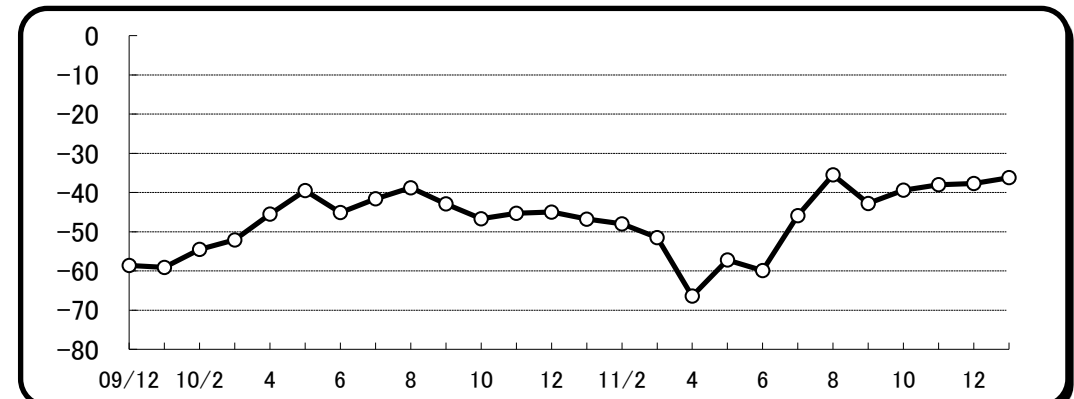
卸売業



小売業



サービス業



【ブロック別概況・北海道】

○全産業の業況DIは、マイナス幅が3カ月ぶりに縮小。産業別では、小売はマイナス幅が拡大したもの、他の4業種は縮小した。
 ○建築工事業からは、「豪雪の影響で、除雪作業に多額の経費がかかっており、業況が厳しい」とのコメント。燃料小売業からは、「イラン問題に伴う原油価格の上昇が心配」とのコメント。旅館からは、「春節における中国人旅行客の増加に期待」との声、ハウスクリーニング業からは、「最低賃金の上昇が経営を圧迫している」とのコメントが寄せられた。
 ○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月からほぼ横ばいで推移する見込み。産業別にみると、建設はマイナス幅が拡大するものの、小売は横ばい、他の3業種は縮小する見込み。

全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2~4月
業況	▲ 30.6	▲ 37.7	▲ 31.1	▲ 38.7	▲ 39.2	▲ 29.5	▲ 28.6
売上	▲ 23.0	▲ 32.9	▲ 29.3	▲ 42.1	▲ 24.0	▲ 24.5	▲ 26.4
採算	▲ 22.2	▲ 36.2	▲ 28.4	▲ 29.3	▲ 32.4	▲ 22.9	▲ 26.7
資金繰り	▲ 12.7	▲ 21.7	▲ 23.6	▲ 23.0	▲ 21.9	▲ 12.5	▲ 16.3
仕入単価	▲ 16.7	▲ 23.2	▲ 17.6	▲ 20.3	▲ 18.9	▲ 27.2	▲ 19.2
従業員	▲ 2.8	▲ 13.0	▲ 5.4	▲ 6.7	▲ 9.5	▲ 8.6	▲ 13.3

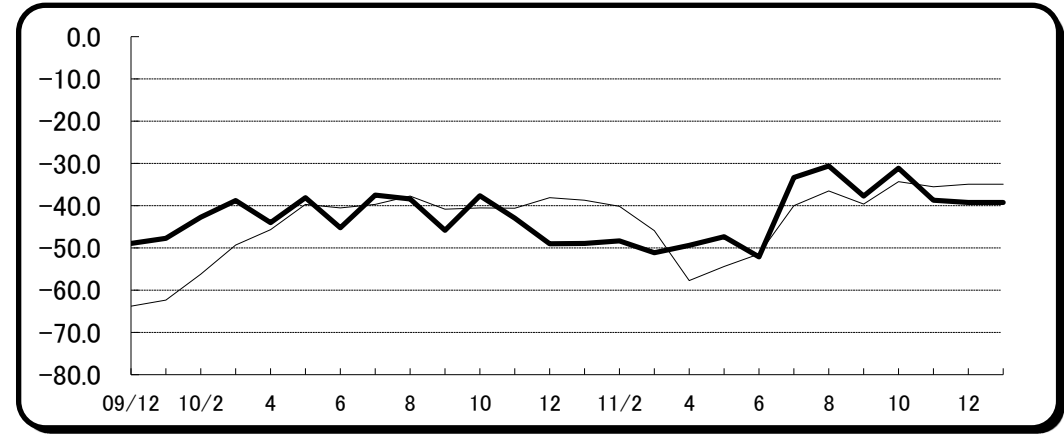
産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2~4月
建設	▲ 36.4	▲ 53.8	▲ 28.6	▲ 42.9	▲ 30.8	▲ 28.6	▲ 42.9
製造	▲ 50.0	▲ 54.5	▲ 53.8	▲ 58.3	▲ 33.3	▲ 31.6	▲ 26.3
卸売	▲ 33.3	▲ 14.3	▲ 50.0	▲ 25.0	▲ 50.0	▲ 22.2	▲ 11.1
小売	▲ 33.3	▲ 42.1	▲ 23.8	▲ 45.0	▲ 28.6	▲ 33.3	▲ 33.3
サービス	▲ 13.6	▲ 21.1	▲ 20.0	▲ 23.8	▲ 55.0	▲ 27.6	▲ 20.7

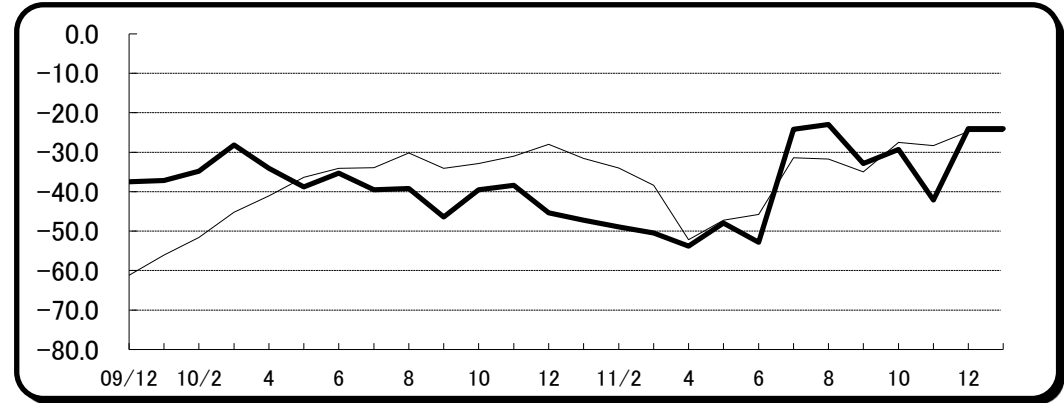
ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（北海道）

—— 北海道 —— 全国

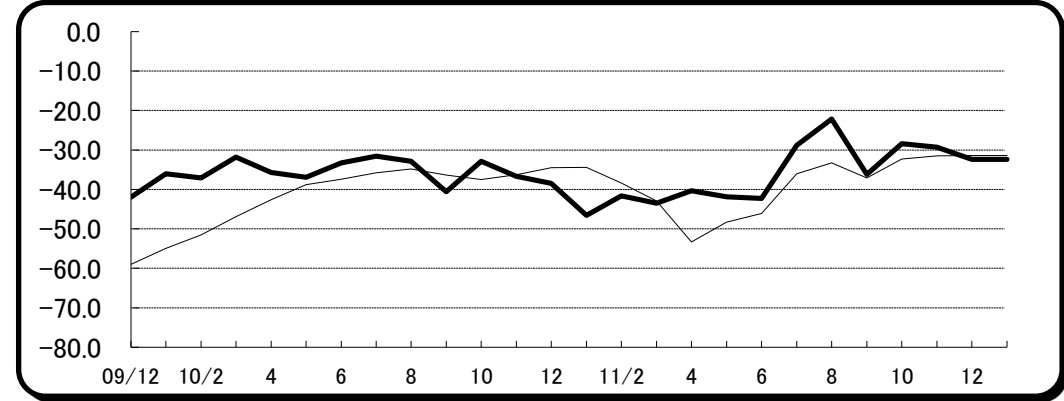
業況



売上



採算



【ブロック別概況・東北】

○全産業の業況D Iは、マイナス幅が2カ月ぶりに縮小。産業別にみると、建設、小売は横ばいだったものの、他の3業種はマイナス幅が縮小した。
 ○一般工事業からは、「地元の下請け業者が不足している。市外に応援を求めているが、風評被害の影響で、高い賃金を提示しないと業者を確保できない」とのコメント。水産食料品製造業からは、「超円高に伴う輸出の減少に加え、海外市場での価格競争激化による採算の悪化が経営課題」との声、鉄素形材製造業からは、「東アジアで南部鉄器の需要が好調」とのコメント。総合スーパーからは、「生活再建需要により、紳士服や礼服など単価の高い商品の売上が伸びている」とのコメントが寄せられた。
 ○業況の先行き見通しD Iは、全産業では今月からマイナス幅が拡大する見込み。産業別にみると、卸売は業況が改善するものの、製造は横ばい、他の3業種は悪化する見込み。

全産業D I（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2~4月
業況	▲ 12.4	▲ 24.7	▲ 18.5	▲ 13.0	▲ 18.9	▲ 10.9	▲ 17.0
売上	▲ 15.3	▲ 18.5	▲ 5.6	▲ 1.7	▲ 18.0	▲ 10.9	▲ 10.0
採算	▲ 22.4	▲ 32.3	▲ 18.5	▲ 19.1	▲ 25.2	▲ 15.0	▲ 24.0
資金繰り	▲ 7.4	▲ 18.7	▲ 20.6	▲ 14.0	▲ 23.6	▲ 15.0	▲ 25.3
仕入単価	▲ 41.8	▲ 34.4	▲ 32.4	▲ 29.6	▲ 28.8	▲ 36.6	▲ 32.7
従業員	5.1	0.0	▲ 0.9	8.7	3.6	7.9	8.9

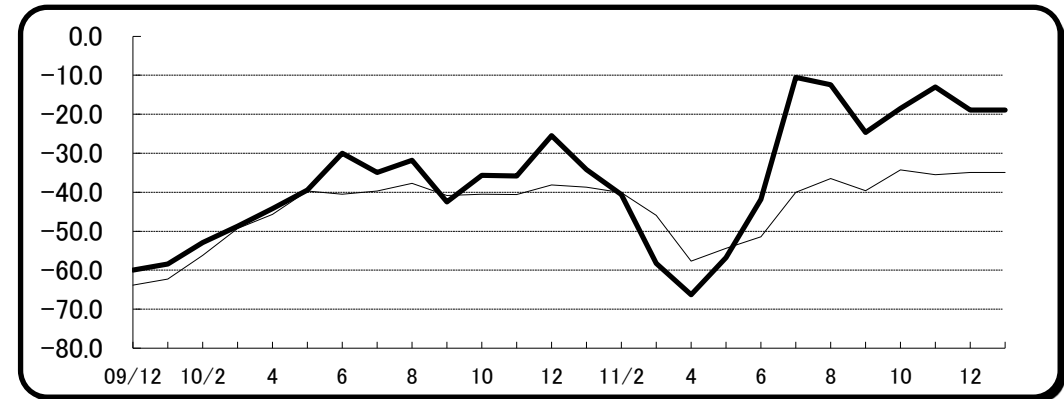
産業別業況D I（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2~4月
建設	▲ 11.8	23.5	21.1	22.7	10.5	10.5	5.3
製造	▲ 34.6	▲ 42.9	▲ 25.9	▲ 23.3	▲ 35.7	▲ 8.3	▲ 8.3
卸売	14.3	0.0	▲ 30.0	10.0	▲ 22.2	▲ 14.3	0.0
小売	12.5	▲ 28.0	▲ 11.5	▲ 9.7	▲ 11.1	▲ 12.0	▲ 29.2
サービス	▲ 21.7	▲ 50.0	▲ 42.3	▲ 50.0	▲ 28.6	▲ 26.9	▲ 34.6

ブロック別全産業D I（前年同月比）の推移（東北）

—— 東北 —— 全国

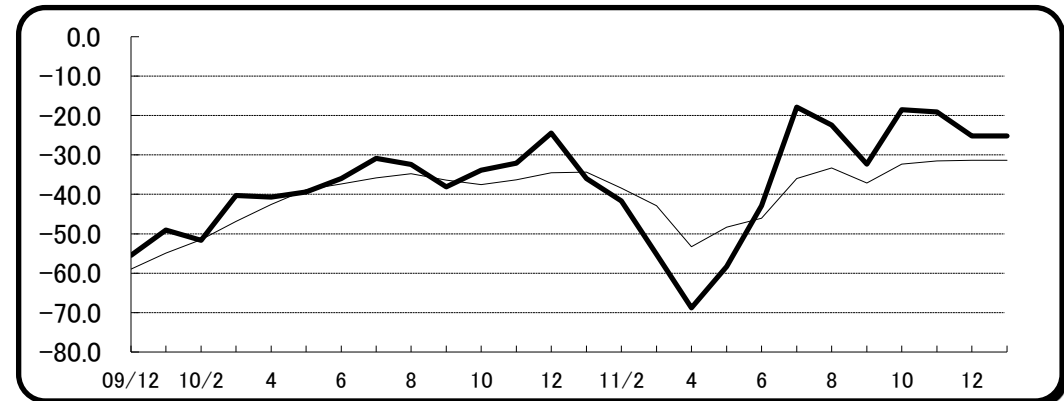
業況



売上



採算



【ブロック別概況・北陸信越】

○全産業の業況DIは、マイナス幅が2カ月連続で縮小。産業別にみると、建設、小売はマイナス幅が拡大したものの、他の3業種は縮小した。
 ○建築工事業からは、「今後、復興需要が本格化することに伴い、被災地以外での公共工事の減少や、技術者・建築資材不足による価格上昇を懸念」とのコメント。金型製造業からは、「新興国での需要が増加するも、現地メーカーとの低価格での受注獲得競争が激化。そのため、自社の生産設備の充実・集約、設計から製作までの生産効率の徹底追求を行う」とのコメント。家具・建具卸売業からは、「超円高の影響で、欧州・ロシア向けの輸出が減少」とのコメント。旅館からは、「このまま円高が続くと、国内旅行から海外旅行へのシフトが進むのではないかと不安」とのコメントが寄せられた。
 ○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月からマイナス幅が縮小する見込み。産業別にみると、製造はマイナス幅が拡大するものの、小売は横ばい、他の3業種は縮小する見込み。

全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2~4月
業況	▲ 38.7	▲ 44.4	▲ 30.2	▲ 41.9	▲ 30.4	▲ 27.7	▲ 24.0
売上	▲ 26.5	▲ 34.2	▲ 22.4	▲ 36.9	▲ 23.0	▲ 20.0	▲ 24.0
採算	▲ 37.4	▲ 38.5	▲ 29.3	▲ 34.4	▲ 28.4	▲ 22.5	▲ 25.8
資金繰り	▲ 28.6	▲ 30.8	▲ 20.4	▲ 23.8	▲ 19.3	▲ 17.7	▲ 19.4
仕入単価	▲ 30.5	▲ 31.0	▲ 24.6	▲ 22.2	▲ 22.4	▲ 22.5	▲ 22.7
従業員	▲ 9.0	▲ 1.7	1.7	▲ 3.8	▲ 3.0	1.5	▲ 1.6

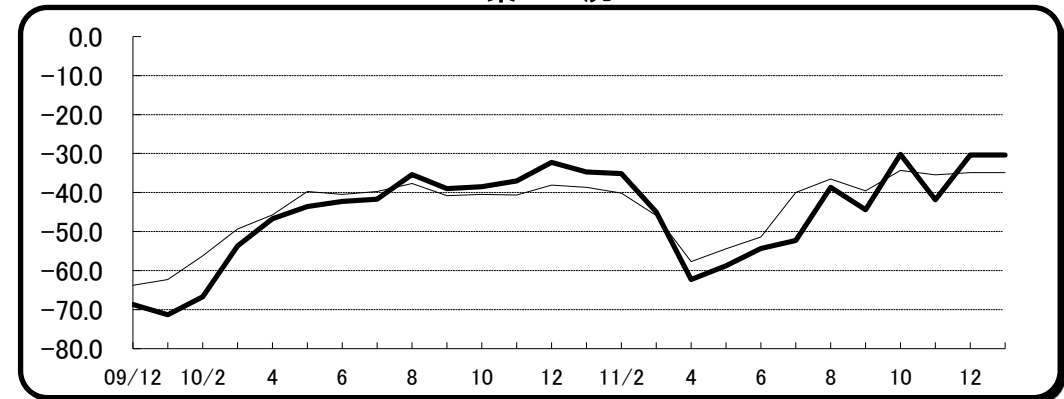
産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2~4月
建設	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 31.8	▲ 46.7	▲ 20.0	▲ 34.6	▲ 32.0
製造	▲ 32.5	▲ 32.1	▲ 3.6	▲ 24.3	▲ 21.9	▲ 6.7	▲ 10.0
卸売	▲ 28.6	▲ 33.3	▲ 80.0	▲ 50.0	▲ 41.7	▲ 21.4	▲ 7.1
小売	▲ 47.4	▲ 59.3	▲ 31.3	▲ 48.8	▲ 30.3	▲ 32.3	▲ 32.3
サービス	▲ 44.4	▲ 57.7	▲ 37.5	▲ 44.7	▲ 42.4	▲ 41.4	▲ 31.0

ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（北陸信越）

—— 北陸信越 —— 全国

業況



売上



採算



【ブロック別概況・関東】

○全産業の業況DIは、マイナス幅が2カ月ぶりに縮小。産業別にみると、製造、サービスはマイナス幅が拡大したものの、他の3業種は縮小した。
 ○一般工事業からは、「復旧・復興工事に携わる熟練工が不足している。今後復興需要が本格化すれば、人員確保がさらに困難になることを懸念」との声、電気通信工事業からは、「携帯電話大手3社が巨費を投じて通信網の増強を行う予定であるため、工事の受注増加を期待」とのコメント。自動車部品製造業からは、「タイ洪水からの復旧・復興の進展に伴い、受注が増加。今後、国内でも復興需要が本格化すれば、受注のさらなる増加が見込まれる」とのコメント。旅館からは、「原発事故に伴う風評被害の影響が今だに大きく、国内外からの宿泊客数が低迷」とのコメントが寄せられた。
 ○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月と比べ横ばいとなる見込み。産業別にみると、小売、サービスはマイナス幅が縮小するものの、他の3業種は拡大する見込み。

全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2~4月
業況	▲ 35.5	▲ 39.5	▲ 32.8	▲ 29.0	▲ 32.3	▲ 31.0	▲ 31.0
売上	▲ 28.0	▲ 32.2	▲ 25.3	▲ 21.3	▲ 16.7	▲ 23.1	▲ 23.1
採算	▲ 31.3	▲ 35.3	▲ 29.9	▲ 25.4	▲ 27.7	▲ 29.8	▲ 27.6
資金繰り	▲ 20.0	▲ 19.9	▲ 20.6	▲ 16.7	▲ 16.1	▲ 18.2	▲ 22.5
仕入単価	▲ 32.4	▲ 32.2	▲ 29.6	▲ 28.5	▲ 23.2	▲ 24.6	▲ 24.4
従業員	▲ 3.3	▲ 2.6	▲ 3.2	▲ 2.0	▲ 2.0	0.9	▲ 1.8

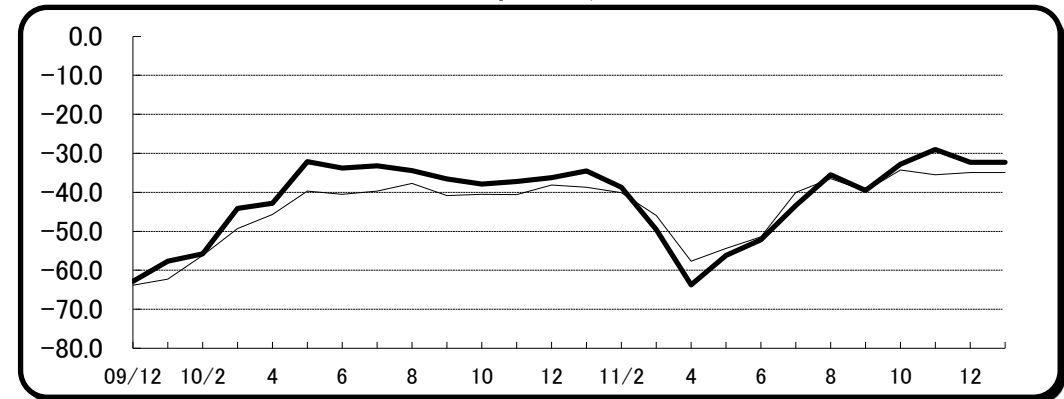
産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2~4月
建設	▲ 50.7	▲ 42.4	▲ 27.0	▲ 23.5	▲ 35.0	▲ 18.9	▲ 24.3
製造	▲ 23.3	▲ 34.3	▲ 23.2	▲ 19.3	▲ 12.2	▲ 27.2	▲ 29.1
卸売	▲ 33.3	▲ 34.5	▲ 21.4	▲ 28.6	▲ 32.1	▲ 18.8	▲ 28.1
小売	▲ 40.2	▲ 45.6	▲ 43.0	▲ 41.2	▲ 42.3	▲ 39.8	▲ 37.9
サービス	▲ 34.8	▲ 40.2	▲ 42.3	▲ 31.3	▲ 39.0	▲ 41.2	▲ 32.5

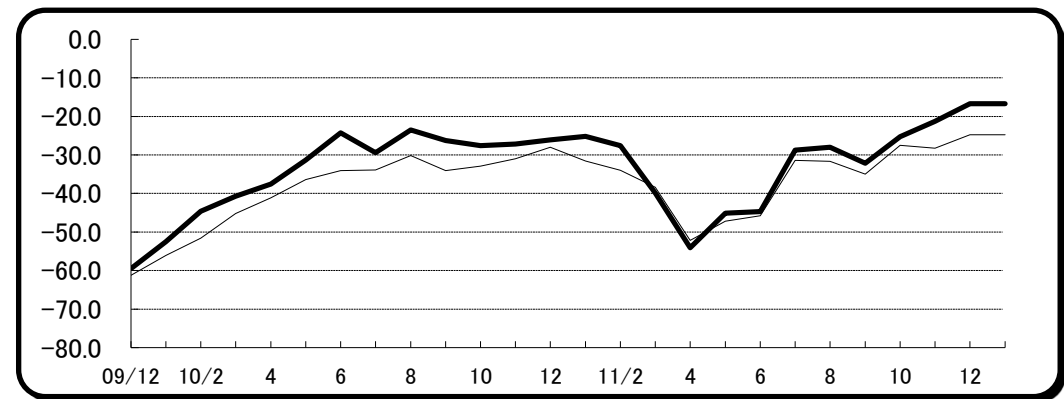
ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（関東）

—— 関東 —— 全国

業況



売上



採算



【ブロック別概況・東海】

○全産業の業況DIは、マイナス幅が2カ月連続で縮小。産業別にみると、建設、小売、サービスはマイナス幅が拡大したものの、他の2業種は縮小した。
 ○一般工事業からは、「復旧・復興工事の増加に伴い、地元の建設業者が被災地に流れ、人材が不足している」とのコメント。自動車部品製造業からは、「エコカー補助金の復活や、県が打ち出した電気自動車とプラグインハイブリット車への減税措置により、自動車販売の増加につながることを期待」との声、プラスチック製品製造業からは、「円高により、輸入原材料を安価で仕入れることができ、経費節減につながっている」とのコメント。一般飲食店からは、「主カメニューであるうなぎの仕入価格が高騰。採算が大幅に悪化し、経営に打撃を受けている」とのコメントが寄せられた。
 ○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月と比べマイナス幅が拡大する見込み。産業別にみると、製造は横ばいとなるものの、他の4業種はマイナス幅が拡大する見込み。

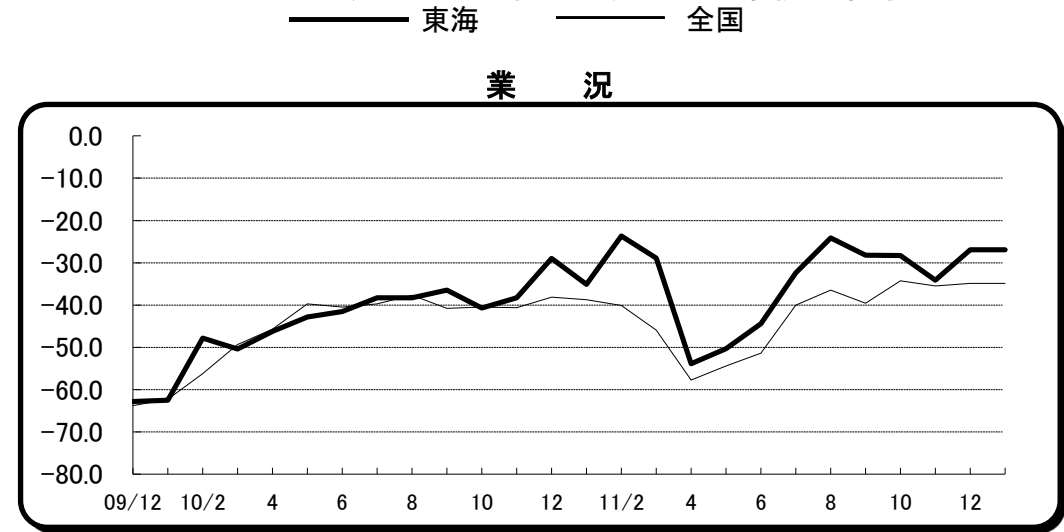
全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2～4月
業況	▲ 24.1	▲ 28.2	▲ 28.3	▲ 34.1	▲ 26.9	▲ 25.3	▲ 32.5
売上	▲ 27.0	▲ 29.0	▲ 19.7	▲ 37.5	▲ 21.4	▲ 26.0	▲ 21.4
採算	▲ 24.1	▲ 27.7	▲ 27.6	▲ 35.3	▲ 30.3	▲ 29.9	▲ 28.6
資金繰り	▲ 13.1	▲ 19.0	▲ 16.8	▲ 18.2	▲ 17.9	▲ 16.1	▲ 20.1
仕入単価	▲ 26.6	▲ 28.7	▲ 19.2	▲ 17.9	▲ 18.9	▲ 17.8	▲ 24.3
従業員	4.3	1.5	1.6	0.0	▲ 2.8	▲ 3.2	▲ 3.2

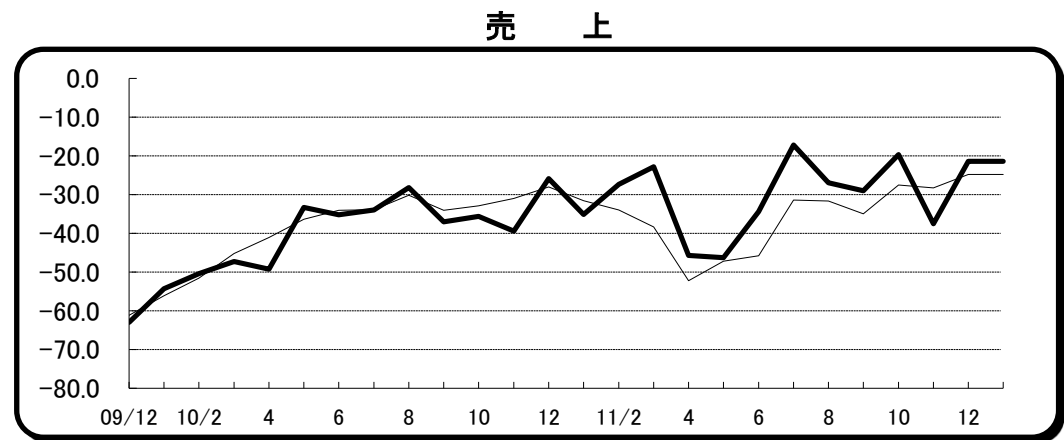
産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2～4月
建設	▲ 38.1	▲ 23.5	▲ 16.7	▲ 12.5	▲ 11.8	▲ 13.6	▲ 27.3
製造	▲ 7.9	▲ 18.9	▲ 21.9	▲ 24.4	▲ 21.4	▲ 15.9	▲ 15.9
卸売	▲ 50.0	▲ 46.7	▲ 60.0	▲ 64.3	▲ 47.4	▲ 38.9	▲ 61.1
小売	▲ 21.9	▲ 15.6	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 38.2	▲ 40.0	▲ 42.9
サービス	▲ 23.5	▲ 46.7	▲ 25.0	▲ 38.2	▲ 18.2	▲ 22.9	▲ 31.4

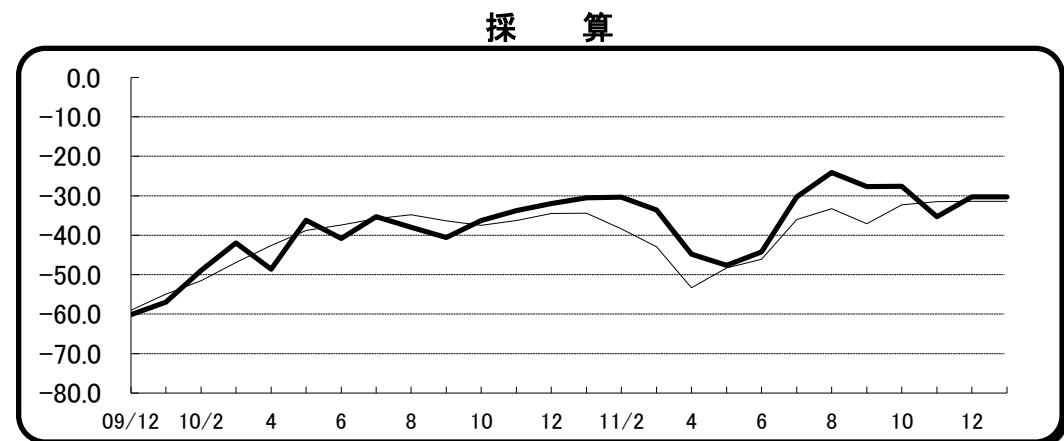
ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（東海）



業況



売上



採算

【ブロック別概況・近畿】

○全産業の業況DIは、マイナス幅が3カ月ぶりに拡大。産業別にみると、サービスはマイナス幅が縮小したものの、他の4業種は拡大した。
 ○下着類製造業からは、「海外製の価格の安い商品ばかり売れて、自社の高級品が売れなくなっている」との声、自動車部品製造業からは、「取引先の増産に対応すべく、自社のライン2直化による生産能力の増強や派遣社員の採用等を実施」とのコメント。水産物卸売業からは、「原発事故に伴う風評被害の影響で、太平洋沿岸で獲れた鮮魚が全く売れない」とのコメント。機械器具小売業からは、「地上デジタル放送への完全移行後、薄型テレビの売上低迷が続いている」とのコメントが寄せられた。
 ○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月と比べマイナス幅が縮小する見込み。産業別にみると、製造はマイナス幅が拡大するものの、卸売は横ばい、他の3業種は縮小する見込み。

全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2~4月
業況	▲ 47.1	▲ 43.3	▲ 43.6	▲ 41.3	▲ 38.7	▲ 45.7	▲ 39.5
売上	▲ 45.3	▲ 46.7	▲ 37.6	▲ 30.6	▲ 31.0	▲ 37.4	▲ 32.3
採算	▲ 46.3	▲ 47.2	▲ 41.5	▲ 39.9	▲ 32.1	▲ 36.8	▲ 32.1
資金繰り	▲ 35.0	▲ 27.1	▲ 25.5	▲ 22.2	▲ 23.2	▲ 24.9	▲ 17.0
仕入単価	▲ 25.7	▲ 29.6	▲ 28.1	▲ 28.2	▲ 22.4	▲ 29.9	▲ 24.0
従業員	▲ 6.9	▲ 3.7	▲ 2.3	▲ 6.7	▲ 1.6	▲ 0.5	▲ 2.2

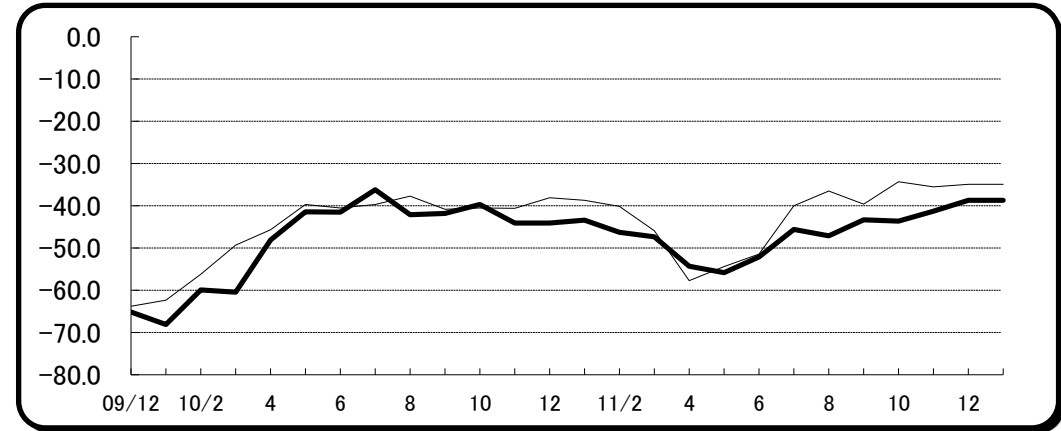
産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2~4月
建設	▲ 63.6	▲ 44.4	▲ 50.0	▲ 47.6	▲ 50.0	▲ 57.1	▲ 42.9
製造	▲ 32.0	▲ 34.9	▲ 39.1	▲ 34.7	▲ 18.2	▲ 30.4	▲ 34.5
卸売	▲ 31.3	▲ 18.8	▲ 35.3	▲ 17.6	▲ 18.8	▲ 21.4	▲ 21.4
小売	▲ 54.4	▲ 56.9	▲ 49.0	▲ 48.1	▲ 49.1	▲ 62.5	▲ 52.1
サービス	▲ 52.3	▲ 44.4	▲ 42.5	▲ 47.4	▲ 55.3	▲ 48.9	▲ 36.2

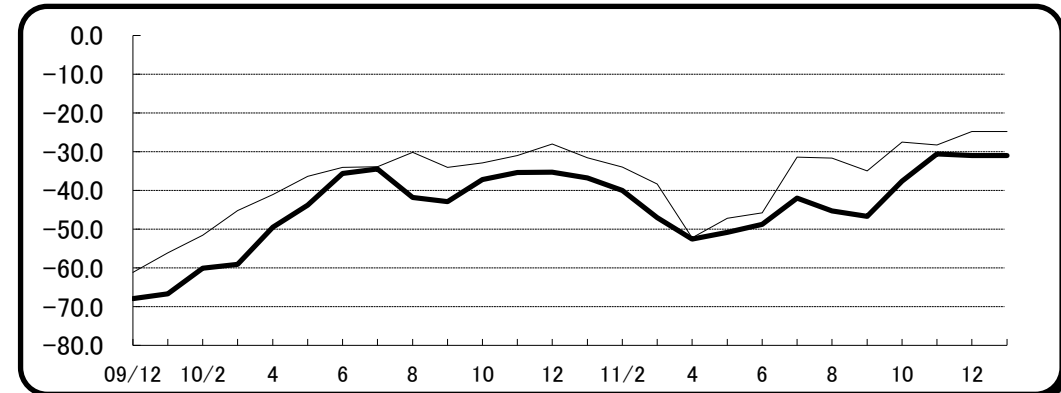
ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（近畿）

近畿 全国

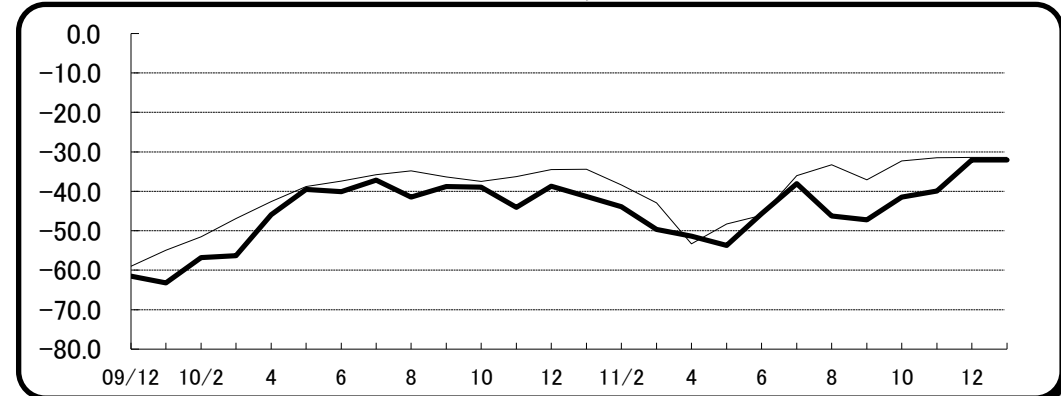
業況



売上



採算



【ブロック別概況・中国】

○全産業の業況DIは、前月と比べマイナス幅が縮小。産業別にみると、建設、卸売、サービスはマイナス幅が拡大したものの、他の2業種は縮小した。
 ○一般工事業からは、「公共工事は、昨年の台風12号の復旧工事が動いており、受注が若干増加」とのコメント。鉄鋼業からは、「円高に伴う取引先の輸出低迷が影響し、自社の受注が落ち込んでいる」との声、織物外衣製造業からは、「中国での製造コストが上昇しており、利益確保が困難」とのコメント。旅館からは、「重油の値上がりにより経費が増加。経営を圧迫している」とのコメントが寄せられた。
 ○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月と比べマイナス幅が拡大する見込み。産業別にみると、サービスはマイナス幅が縮小するものの、卸売は横ばい、他の3業種は拡大する見込み。

全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2~4月
業況	▲ 49.5	▲ 46.1	▲ 48.0	▲ 47.8	▲ 47.1	▲ 41.1	▲ 43.0
売上	▲ 46.5	▲ 40.2	▲ 48.5	▲ 34.4	▲ 38.6	▲ 43.9	▲ 37.4
採算	▲ 30.7	▲ 36.3	▲ 41.6	▲ 32.2	▲ 29.5	▲ 36.4	▲ 30.8
資金繰り	▲ 33.7	▲ 30.7	▲ 31.6	▲ 33.7	▲ 29.9	▲ 25.5	▲ 21.9
仕入単価	▲ 21.0	▲ 14.9	▲ 22.2	▲ 21.3	▲ 20.7	▲ 12.3	▲ 10.4
従業員	▲ 23.0	▲ 13.7	▲ 17.0	▲ 14.4	▲ 18.2	▲ 19.6	▲ 15.9

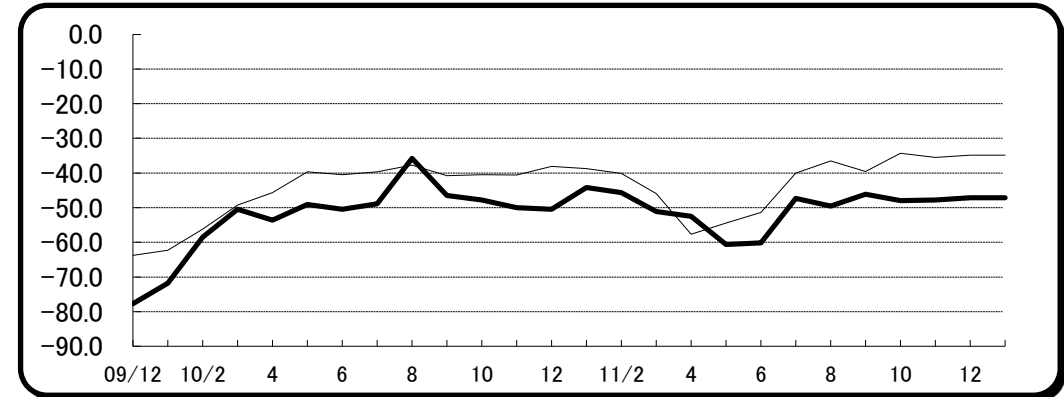
産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2~4月
建設	▲ 61.5	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 18.2	▲ 40.0	▲ 42.9	▲ 57.1
製造	▲ 35.3	▲ 28.1	▲ 26.7	▲ 40.0	▲ 35.5	▲ 32.3	▲ 35.5
卸売	▲ 53.8	▲ 54.5	▲ 58.3	▲ 36.4	▲ 33.3	▲ 35.7	▲ 35.7
小売	▲ 56.0	▲ 59.3	▲ 66.7	▲ 75.0	▲ 76.2	▲ 41.9	▲ 48.4
サービス	▲ 56.3	▲ 50.0	▲ 56.3	▲ 50.0	▲ 46.2	▲ 58.8	▲ 41.2

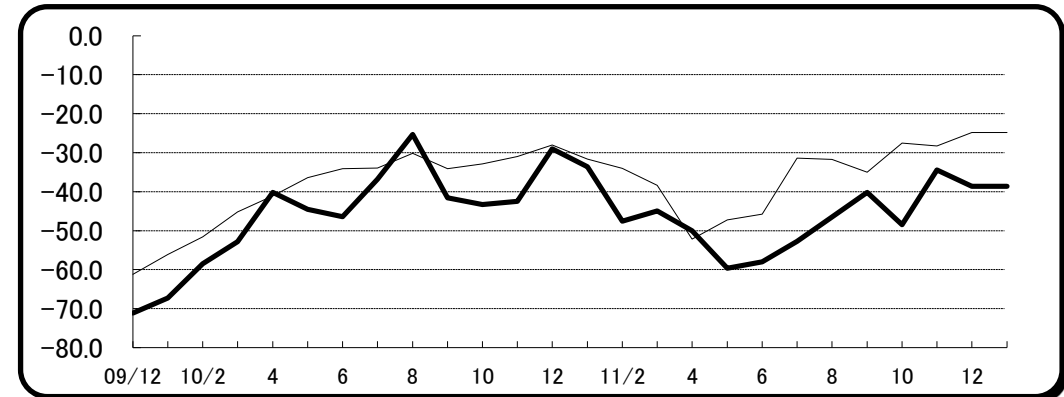
ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（中国）

——— 中国 —— 全国

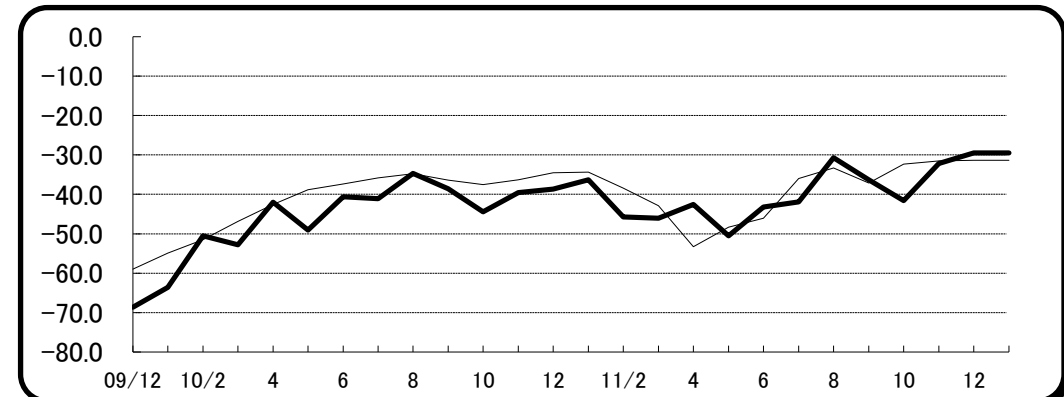
業況



売上



採算



【ブロック別概況・四国】

○全産業の業況DIは、マイナス幅が3カ月ぶりに縮小。産業別にみると、建設はマイナス幅が拡大したものの、他の4業種は縮小した。
 ○一般工事業からは、「多くの建設業者が被災地に向いているため、労働者の確保が困難」とのコメント。織物外衣製造業は、「円高にもかかわらず輸入原材料の価格が高止まりしており、採算が厳しい」との声、建設・建築用金属製品製造業からは、「地元の大型原子力発電所が、定期検査により運転を停止したため、今後の生産活動への影響が心配」とのコメント。喫茶店からは、「海外経済の変調等の先行き不安により、節約志向が強まっており、売上が伸びない」とのコメントが寄せられた。
 ○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月と比べマイナス幅が縮小する見込み。産業別にみると、卸売はマイナス幅が拡大するものの、他の4業種は縮小する見込み。

全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2～4月
業況	▲ 38.2	▲ 42.1	▲ 31.5	▲ 44.2	▲ 46.3	▲ 38.0	▲ 28.0
売上	▲ 40.0	▲ 45.6	▲ 28.8	▲ 37.2	▲ 36.1	▲ 32.4	▲ 31.8
採算	▲ 36.4	▲ 45.6	▲ 31.5	▲ 33.6	▲ 41.7	▲ 37.0	▲ 28.0
資金繰り	▲ 22.7	▲ 22.8	▲ 15.3	▲ 23.9	▲ 24.1	▲ 28.7	▲ 27.8
仕入単価	▲ 29.1	▲ 33.3	▲ 29.7	▲ 28.3	▲ 29.6	▲ 25.9	▲ 16.8
従業員	▲ 9.1	▲ 9.6	▲ 7.2	▲ 6.2	▲ 4.6	▲ 6.5	▲ 7.4

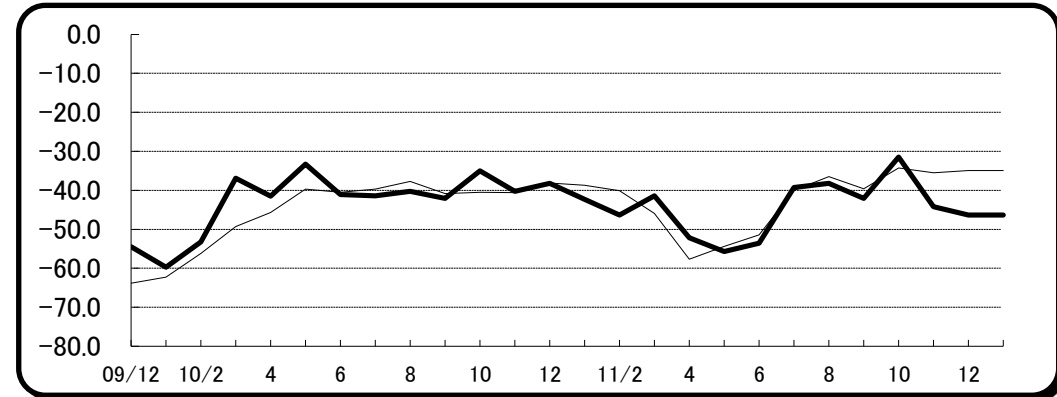
産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2～4月
建設	▲ 65.0	▲ 65.0	▲ 55.0	▲ 45.0	▲ 58.8	▲ 61.1	▲ 50.0
製造	▲ 18.5	▲ 30.0	▲ 17.2	▲ 39.3	▲ 37.9	▲ 30.8	▲ 15.4
卸売	▲ 55.6	▲ 70.0	▲ 50.0	▲ 12.5	▲ 60.0	▲ 22.2	▲ 37.5
小売	▲ 38.5	▲ 39.3	▲ 25.0	▲ 58.6	▲ 51.9	▲ 44.4	▲ 33.3
サービス	▲ 32.1	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 42.9	▲ 36.0	▲ 28.6	▲ 17.9

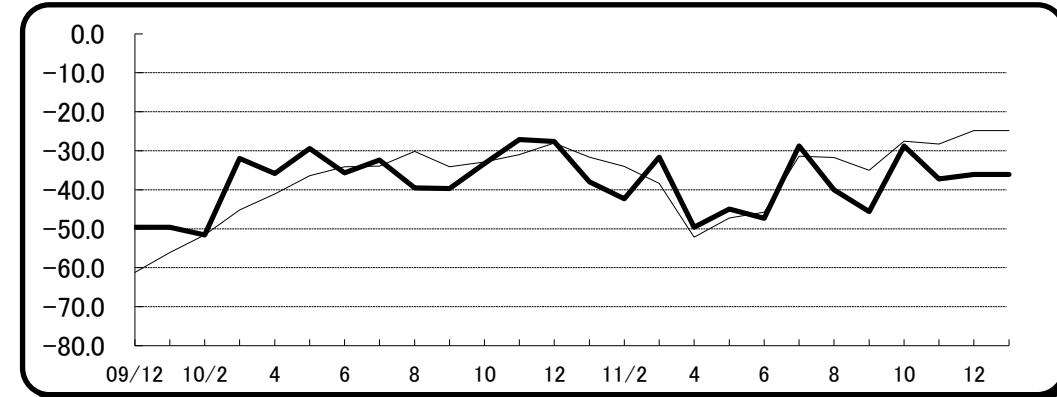
ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（四国）

—— 四国 —— 全国

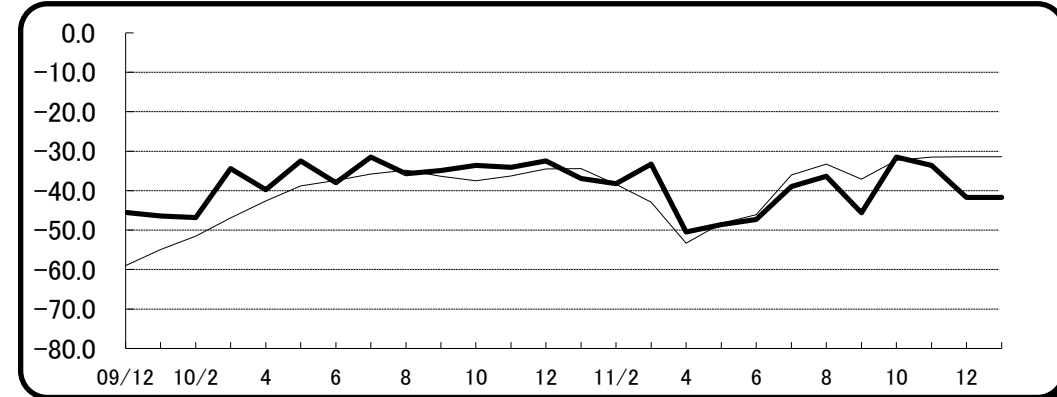
業況



売上



採算



【ブロック別概況・九州】

○全産業の業況DIは、前月と比べマイナス幅が縮小。産業別にみても、全ての業種でマイナス幅が縮小した。

○一般工事業からは、「九州新幹線や地元での道路整備の効果により、転入者数が増え、住宅着工件数が伸びている」とのコメント。金属加工機械製造業からは、「地元大型造船所の新造船受注が増加。今後、下請けである自社の受注が増えることを期待」との声、産業用電気機械器具製造業からは、「円高の影響で経営環境が悪化している取引先から、コストダウン要請が強まっている」とのコメント。総合卸売業からは、「九州新幹線の効果で、観光客の来店が増え、売上増加につながっている」とのコメントが寄せられた。

○業況の先行き見通しDIは、全産業では今月からほぼ横ばいとなる見込み。産業別にみると、製造はマイナス幅が縮小、サービスはほぼ横ばい、他の3業種は拡大する見込み。

全産業DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2～4月
業況	▲ 44.6	▲ 47.2	▲ 42.5	▲ 45.1	▲ 44.4	▲ 33.1	▲ 33.3
売上	▲ 35.1	▲ 35.8	▲ 32.4	▲ 32.6	▲ 33.3	▲ 19.0	▲ 26.2
採算	▲ 39.7	▲ 35.2	▲ 41.9	▲ 43.0	▲ 43.7	▲ 27.7	▲ 26.4
資金繰り	▲ 30.8	▲ 37.8	▲ 28.9	▲ 28.9	▲ 29.6	▲ 28.4	▲ 25.0
仕入単価	▲ 28.1	▲ 33.6	▲ 37.3	▲ 26.2	▲ 25.4	▲ 34.8	▲ 27.1
従業員	▲ 11.5	▲ 8.1	▲ 11.0	▲ 5.6	▲ 7.4	▲ 2.8	▲ 2.8

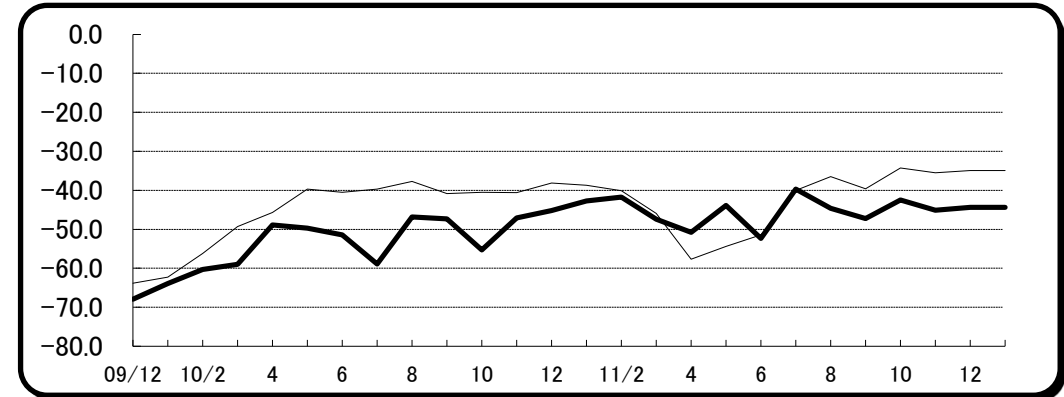
産業別業況DI（前年同月比）の推移

	11年 8月	9月	10月	11月	12月	12年 1月	先行き見通し 2～4月
建設	▲ 65.2	▲ 45.0	▲ 54.2	▲ 58.3	▲ 65.2	▲ 43.5	▲ 47.8
製造	▲ 42.4	▲ 43.3	▲ 39.3	▲ 41.9	▲ 46.4	▲ 43.3	▲ 20.0
卸売	▲ 36.4	▲ 30.8	▲ 38.5	▲ 69.2	▲ 35.3	▲ 11.8	▲ 29.4
小売	▲ 42.9	▲ 57.6	▲ 32.4	▲ 41.0	▲ 52.8	▲ 40.0	▲ 48.6
サービス	▲ 35.7	▲ 48.1	▲ 50.0	▲ 34.3	▲ 22.6	▲ 21.6	▲ 22.2

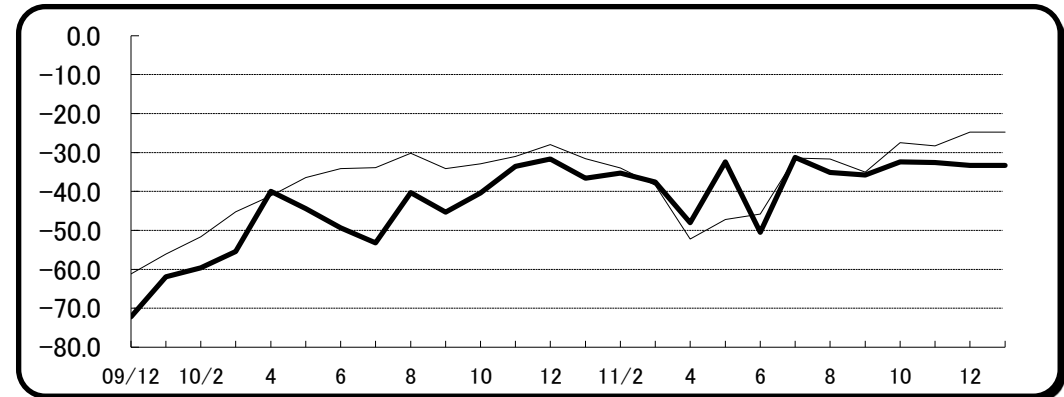
ブロック別全産業DI（前年同月比）の推移（九州）

九州 全国

業況



売上



採算

